

事務局：可能である。

委員：達成度の評価は委員一人ひとりに託されていると考えてよいか。

事務局：内部評価の説明をしたうえで、委員一人ひとりから評価をいただき、その後、委員会全体としての評価をしてほしい。

委員：コロナによって施策が取り組めなかった場合に「E」評価になるという点に疑問がある。

事務局：評価をいただくのは様々な事業を取りまとめた「単位施策」なので、コロナによって取り組めなかった事業が一部あっただけでは単位施策としてE評価にはならない。また、コロナ以外の理由で取組が進められないものはいくつかある。10年にわたる計画であるためそういった事業も存在してくるが、コロナによって単位施策の評価に与える影響は過大なものではないと想定している。

委員：2年間で全ての施策を評価するとなると委員も大変だが、その資料を作る職員も大変だと思う。評価に追われ本来の事業が疎かになってしまうのは本末転倒だが、どう考えているか。

事務局：負担が無いということはもちろんないが、負担を減らすことは考えていて、行政改革の委員会と統合し双方のバランスを考えながら評価様式などの案を作った。

委員：第5次岩倉市総合計画 基本施策評価シートは2年に1回作ることになるのか。

事務局：毎年全施策分を作り、庁内評価も毎年全施策分を行います。2年分の評価をするわけではなく、前年の評価シートは参考資料として見ていただき、直近の年の評価をしていただくというのが事務局案。

委員長：2年分の評価ではないということか。

事務局：はい、事務局案としては前年の評価シートは見ていただき、直近の年の評価をしていただくことを想定している。2年分の評価を1枚のシートにまとめることは可能だとは思いますが、庁内としては必ず毎年シートを作成・評価するので、別の作業が必要となってしまう。現行の案では、直近分の評価シートは「市民評価」欄と「市民評価 判断理由・コメント」欄を残し、その前年分の評価シートは斜線を入れる予定。

委員長：総合計画が目指している姿に近づけているかの評価も大切だと思うので、単年の評価も大切だが、全体としての評価も大事だと思う。

委員：評価を作成する側は市民評価を強く意識すると思うので、身構えすぎないような雰囲気づくりが大切だと思う。

委員：同年中に評価する施策は、関連性の強いものを一緒に評価する方が良いと思う。

委員：指標アンケートについて、2年に一度2,000人となっているが、年齢等は考慮するのか。

事務局：年齢構成・男女比含め市の構成比率と合わせての無作為。小学校区に分けての無作為となっているので、小学校区ごとの分析もできる。

委員：評価として、「取組が充実している」かつ「成果指標の実績値が策定時の現状値から低下している」の場合に、C評価となり、C評価は「順調とまでは言えず、取組内容に改善・努力が必要」という説明になっているが、言葉に少し矛盾を感じる。

事務局：おっしゃるとおりだが、実際に評価する際は、そういった選択は起こりづらいと考える。また、なかなかそういった取組が想定しづらい。

委員長：成果指標の中には、市民の意識が含まれているので、想定しづらいがそういった事態が起こる可能性はある。

委員長：評価シートについて、課全体の年度でのふりかえりの際等で使用してほしい。

委員：評価前の事前準備として委員として何を注意していたら良いか、あれば教えてほしい。

事務局：特段これと言っては無いが、広報紙を読む、メールやLINEの登録をいただけるとありがたい。また、時間的に余裕があれば議会もご覧いただけるとありがたい。

委員：実際の現地を見た方が理解しやすいこともあり、現地を見ることは良いと思う。

委員長：普段の生活の中で友人の話を意識的に聞いてみるだけで変わることもあると思う。

資料2、3について事務局より説明

事務局：評価シートの「市民評価」欄と「市民評価 判断理由・コメント」欄は空欄で委員の皆さんの意見を反映する箇所となり、主要施策の成果報告書は委員の皆さんに配布予定。「重点」という表記は市の内部で決めて内部評価をしていく。「重点」の数は1もしくは0を想定している。

委員長：様式はA4とA3どちらを想定しているか。

事務局：実務的にはA4が良いと考えているが、内容的にA4でおさまるか微妙である。

委員：前回までの様式では、個別施策ごとに評価をすることとなっていたが、新様式はそうではないつくりになっている。そうすると担当課の考えが見えづらくなるので、委員としては判断しづらくなると考えるがどう考えるか。

事務局：考え方次第かと思うが、単位施策のための個別施策であるので、個別施策の評価からの影響を受けすぎないようにこういった形とした。

委員：やはり担当課の考えが見えづらくなるので、可能であれば個別施策にも担当課の評価が欲しい。

委員長：市の内部的には個別施策の評価はするのか。

事務局：新様式からは無くそうと考えていた。「重点」項目の採用について、賛否はどうか。

委員長：個別施策にも評価がついていると委員としては参考になるので考えてほしいが、市役所内の調整に従う。

委員：単位施策の「庁内評価」欄について、担当課が評価した場合にその評価とした理由みたいなものを記載する欄があると良い。担当課と事務局の評価がズレる場合だけでも良いので、そういった欄があると良い。

委員長：「単位施策の成果指標」と単位施策の「庁内評価」が明らかに食い違っているような場合は特例的に評価の理由を記載してもらうようにして、市民評価をする際に参考になるようなことがあれば、それを記載してもらいたい。

委員：市役所内部で評価への意見が割れるようなことがあれば、それを見えるようにしてほしい。

事務局：説明者は担当課長となる予定。なるべく内部で割れるようなことがないように調整していく。

委員：市民評価をする際にのみ個別施策に対する業務割合を表示させ、公表する際には業務割合を表示しないようにすることは可能か。

委員長：今の話では、100%とは何を指すか。

委員：課の業務全体。重点に対する業務割合が記載されていればズレることも少なくなると考える。

事務局：個別施策によっては、担当課が複数ある場合があり、単位施策でいうとより多くの課が関わる場合があるので、業務割合を示すことは非常に難しい。

委員長：お金が必要な施策、人間が必要な施策など、様々な施策があるので言った内容そのままを表示するのは難しいと考えるが、担当課長が説明する際に口頭で重点を示すことになる想定される。

事務局：「重点」を設定していればそのような説明になると考えられる。

委員：「単位施策の成果指標」を「庁内評価」や「市民評価」の上に移動してほしい。「施策がめざす将来の姿」に対する進捗は5年に1回の見直しではなく、庁内の自己評価として毎年一言で良いのであった方が好ましい。

委員：「課題と今後の方向性」欄は、1つ1つの施策についての今後の展開を記載するのではなく、「施策がめざす将来の姿」に対しての記載としても良いのでは。また、「重点」はどのタイミングで記載するのか。

事務局：「重点」は毎年、評価のタイミングに記載する。

委員：毎年変わるとのことか。

事務局：はい。

委員：後付けになるということもあるのか。

事務局：そういったタイミングにはなるが、人事異動等も踏まえ後付けはしづらいと考える。

委員長：「重点」は昨年一年間頑張った箇所に付けるという認識で良いか。

事務局：はい。本来なら計画を立てる段階で重点を設定するべきだというのはもっともだと思う。

委員：書きあがったシートだけ見ると勘違いさせてしまうので、取組内容の箇所等にそういった記載があった方が良い。

委員長：ここまでの話を整理すると、「取組内容及び成果」は個別の施策ごとに書かれているが、冒頭に重点事項を書いてもらった方がよい。もう1点、「課題と今後の方向性」に「施策がめざす将来の姿」へ向かっているかどうかという主旨で、冒頭に課題や方向性を記載して、必要であれば個々の事業についての記載をするという形ではどうか。

委員長：どうしようもない部分だとは思いますが、ページの区切りが上手に切り替えられるとなお良い。もう1点、「単位施策の成果指標」についての記載は単位施策の冒頭が良い。

(2) その他

事務局：委員の意見を踏まえ、最終形を市長に報告したうえで、来年2月ごろに新制度として進めていく。実際の評価は来年度の秋頃を想定している。

3 その他

- 来年度は全部で5回の会議を想定している。最初の2回で行政改革の行動計画を7月中旬以降に、残り3回は10月、11月あたりを想定している。
- どういった分野から評価を行うか。
⇒教育や生涯の分野（1章・2章）が行いたい。
組み合わせとしては、1章+2章+5章の一部、3章+4章+5章の一部。
⇒来年度は「1章+2章+5章の一部」とする。